

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月7日

【評価実施概要】

事業所番号	1173100429
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	熊谷ケアセンターそよ風
所在地	360-0018 埼玉県熊谷市中央5-5-16 (電話) 048-528-8720
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
訪問調査日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(平成19年10月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	31 人	常勤18人、非常勤13人、常勤換算	25.51人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての2階部分
------	-------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000円+実費	
敷金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,400円				

(4) 利用者の概要(10月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低 78 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	熊谷総合病院・熊谷外科病院・慈恵病院・藤間病院・牛島歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊谷駅北口からバスで10分程度の住宅街の入り口にある、近代的な明るい建物の中に当グループホームがある。県内に福祉サービス関連事業を多数チェーン展開している法人が運営しているグループのうちの1つである。外出時などには地域の人々から声を掛けられ、1階のデイサービスとの交流もある。訪問調査当日もデイサービスの音楽療法に参加していた。入居にあたり2泊3日の体験入居(ショートステイ)や見学をしていただき、利用者・家族が納得の上で入居を決めて頂いている。職員は利用者の意志・人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努め、穏やかで笑顔を絶やさない対応で、自分達の職場や介護の仕事に誇りを持っている。同一法人の他のグループホームとの交流や情報交換、学習会等もあり、前向きに仕事に取り組む姿勢がある。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>福祉サービス事業を全国でチェーン展開している法人の理念及び運営規定をホーム内に掲示しているが、地域密着型のグループホームとして事業所独自の理念は具体化されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員全体会議で検討され、日ごろの業務の見直しになり、業務に役立ったという職員の声も聞かれ、効果を挙げている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回センター長、職員、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加により、運営推進会議を開催している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>毎月利用者全員にそよ風グループの活動状況をホーム便りとして郵送している。加えて外出状況、会計報告、体調、受診状況、介護保険認定調査結果などを写真を添えて報告している。また、家族からの苦情・意見を把握するために、独自にアンケート調査を実施した。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等外出の際に近所の方から声を掛けられたり、1階のデイサービス利用者との交流等がある。また、園児の慰問や中学生体験学習の受け入れ、デイサービスに来られるボランティアとの交流がある。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ヒューマンサイエンス」という法人の理念が書かれた額をホームに掲示しているが、事業所独自の理念は作成されていない。	○	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念を作成し、日々のサービスの目標とし、更なるケアの質の向上に繋がりたい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「日々のケアをとおり、その人のできる事を伸ばす様なかわりをする」、「その人の持てる時間を大切に、個人を尊重し決して無理強いはいしない」等のことをミーティングを通しそのつど職員間で話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの園児の慰問や中学生のボランティア体験学習を受け入れ、デイサービスで行われているボランティアによる大正琴の演奏会等にホームの利用者も参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を理解し、日々の取り組みに対する自信にも繋がったと職員は述べている。外部評価の目的・意義は理解されているが、外部評価の結果で改善されていないものが幾つかある。	○	外部評価の目的・意義を再確認し、業務改善会議で運営者、管理者、職員が一体となって検討し、日々のサービスのステップアップにつなげられるように、計画的に業務検討会議を改善されたい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を平成19年度から開始している。年間行事、メデカジャパンの方針、案内、家族アンケート等が実施され、2ヶ月に1回会議を開催している。センター長や職員、家族、地域包括支援センター職員、民生委員等の参加が得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は運営推進会議に参加されていない。また、生活保護を受けている利用者もいないということもあり、市と行き来する機会がない。	○	事業所の考え方や実情を市に伝え、運営の実態を共有し、直面している運営及びサービスの課題解決に向けて共に取り組む体制をつくるために、事業所から積極的に事業所の情報を市に提供することを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の利用状況をホーム便りで報告している。他に外出状況、体調、受診状況、介護保険認定結果、会計報告(小遣帳)などを写真を同封して郵送している。会計報告は領収書を添付し、サインを貰うシステムをとっている。他に必要なことは面接時に対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口について、利用者及びその家族には入居時に文書をもって説明し、入居後も口頭で繰り返し説明している。独自にアンケートを実施したが運営に反映するような意見は出てこなかった。家族会は実施していない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動の際には、デイサービスとの人事交流も含め、利用者にとって馴染みの職員が対応するようにして、職員の異動に伴う利用者の不安を最小限に抑えるように配慮している。ホーム長の異動の時は、特に引継ぎの時間を確保している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として関東地域を東西南北ブロック単位で研修計画を立案し、入社1年目、3年目、係別等職員の経験や役割別の研修計画がある。受講者は研修報告書を提出し全体会議で報告される。他に同法人の他の事業所見学など、役割別に見学・情報交換等の研修をする。新人研修も約1ヶ月間の期間を充当する。受講希望者は勤務表の調整もして貰えるなど、組織的に人材育成のシステムができている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホーム同士の交流で学習会を実施している。毎月1回県内の事業所間で情報交換やリーダー育成研修会など実施しているが、他法人の同業者との交流は少ない。	○	より一層サービスの質を向上させるために、同一法人以外の事業所との交流もぜひ検討されることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>2泊3日のショートステイでの体験入居後、利用者を受け入れている。空き部屋がない場合は見学に応じている。本人・家族が納得し、ホームの雰囲気に慣れてから入居を勧めている。利用者がホームの生活に慣れるまで、家族の面会を可能な限り勧めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と職員が共に生活していることを実感するために、職員は朝食作り等の家事を利用者と一緒に行っているが、職員は利用者から生活の知恵を学ぶことが多く、お互いに「ありがとう」の言葉が自然に出る。結婚した職員や妊娠した職員に我が事のように喜んで声を掛けてくださる利用者もあり、励まされ助けられていると実感するという。お互いに助け合っている関係で、決して一方的に介護する関係ではなく共に支え合っていると実感している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居に当たり、家庭訪問や入院先等での実地調査を通し、健康状況や性格、趣味、生活歴等の情報収集を行うことにより、本人の思いや意向を把握し、入居後は日々の関わりの中から可能な限り本人本位に対応する努力をしている。本人の意向が把握できない場合、職員で話し合ったり家族に伺ったりする。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居から1ヶ月くらいは様子を観ながら状況に応じて計画を立案する。毎日の生活の様子を観ながら積み重ね、介護計画に繋げている。職員からは「当ホームでは皆の意見を吸い上げ、気づきを大切に貰える」という声が聞かれる。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月に1回定例会議で介護計画について検討している。3ヶ月に1回見直し修正する。原則職員で検討するが家族の要望も含め計画に反映させている。計画はコピーをして家族に郵送する。また、状況の変化に応じ、介護計画の見直し、修正がされる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	夜間の状態の変化における医療的緊急時には職員が対応し、センター長、管理者へ電話連絡を行い、緊急時の対応にも柔軟に支援している。また、1階のデイサービスとは音楽療法に参加することにより交流を図っている。お盆、年末、年始等の外泊の希望があった場合には臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居後のかかりつけ医について家族と相談している。原則受診は家族が同行している。本人及び家族の希望により以前からのかかりつけ医を受診している利用者に対しては必要時職員が対応している。ホームの提携医療機関による医師の往診が2週間に1回、歯科医の訪問診療、口腔ケアも受け入れているが、提携医療機関以外の医師による診察を受けることも可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的にはターミナル期の方は特別養護老人ホームに入居してもらうシステムであるが、センター長の看護師や往診によりホームでの受け入れも可能である。重度化や終末期の対応について家族・主治医と相談し、利用者及び家族の状態や希望により柔軟に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ時の誘導や入浴介護時、食事介護時の食べこぼし等には利用者のプライバシーを損ねないように配慮している。個人記録は利用者の目に触れない場所に管理し、職員には入社時に個人情報の保護に努めるよう伝えている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や散歩の時間等大枠は決めてあるが、その日利用者が何をしたいか確認し、状況に応じて対応している。食事時間、散歩、昼寝、入浴、買い物、趣味など様々な希望を受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食はホームで調理するが、他は1階のデイサービスと共に調理センターで作られ、盛り付けだけホームで行う。メニューは2種類からの選択性であり、個人の希望や体調に応じて粥食等の対応がされる。利用者の希望により外食も取り入れている。昼食及び夕食は利用者と職員が別に摂るシステムである。食事に関する記録はきちんととられている。	○	前回の外部評価の指摘事項であったが、和やかな食事の場作りは十分には改善されていない。食事の時間をもう少し楽しくゆったりと、楽しいひと時になるような場作りの工夫が望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室に浴槽が2つあり、仲良し同士が一緒に入るといいう。入浴時間は概ね定められているが、本人の希望には可能な限り応じている。入浴不可能な身体状況の方には足浴や清拭のケアを実施している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味の絵を書く人、パズルをする人、裁縫やお花を育てる人等利用者一人ひとりの趣味を生活に取り入れている。週1回講師を招いて音楽療法も実施している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良ければ基本的には近くの公園まで散歩をする。ホームセンター、薬局、ポスト、スーパーなどにも外出している。お花見、地域のお祭り、クリスマスシーズンのイルミネーション見物・白鳥渡来時期の見物等季節折々の風景を楽しめるような外出の機会をつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	バス通りに近く、車の往来は多いため、入居時に家族の了解を得て玄関口に鍵を掛けている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルや職員・家族への連絡網等防災訓練の書類を整備している。また、消防署指導により防火訓練が実施されている。しかし、地域住民との協力体制は不十分である。	○	新入職員のオリエンテーションでは十分に防災対策に関する内容を伝えてほしい。また、いざという時に、近隣住民の応援体制も得られるような関係作りも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランス良い食事で、体調に応じて食事形態を工夫している。水分摂取もいつでも自由に飲めるように準備され、水分摂取の際には適宜声かけを実施されている。食事摂取状況の記録もきちんと記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間のテーブルにはゆったりとしたソファがあり、モダンな雰囲気である。不快な音や光はなく清潔感があり、利用者の作品などが飾られ見やすい時計やカレンダーも飾られている。浴室・トイレは清潔で安全に配慮された作りである。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みや体力に応じた居室作りの工夫がなされ、また、使い慣れた家具調度品を持ち寄っている。カーテンは施設で準備されているが、カーペットやベットは個人の物やリースで対応している。思い出の写真、人形、仏壇を置き、利用者が自分の居場所として落ちつける心地良い空間づくりを支援している。		